

2023年度 事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

【1】事業の成果

前年度に引き続き今年度も、一人ひとりの命と人権を尊重する心を育み、寛容で公正な社会を築くことを目指して、小学生から中学・高校生、大学生、一般市民を対象にした教育事業に取り組んだ。昨年の定款変更に基づき、教材として第二次世界大戦とナチズム及びホロコーストの歴史を教材として取り上げた。当NPOの設立以来の事業目的に沿って、歴史の伝承にとどまらず、自らの社会をふりかえり、差別や偏見、異なるものを受け入れることができない人間の弱さを考える教育の機会をつくりだすことを目指した。

主な事業である学校訪問授業は53回(前年55回)、オンラインでの主催事業は16回(前年38回)、計69回の実施を通して、延べ7,248名に学習の機会を届けることができた。昨年に引き続き、問いづくりや哲学対話を取り入れながら、対話を促し、思考を深めるアクティブラーニングを実施し、主体的な学びを促した。

アウシュヴィッツなどのヨーロッパの史跡を訪ねるスタディツアーはコロナ禍を経て3年ぶりに実施することができた。全国から大学も学部も異なる12名の学生が参加した。一般参加者向けのツアーについては、物価高や円安などの事情から企画を見送ってきたが、多くのリクエストが届いているため、次年度以降検討したい。

9月から5ヶ月間にわたって、ドイツ連邦共和国大使館の助成を受けて、シリーズ「想起の文化を育む」第二弾を開催した。「抵抗」というキーワードから歴史を探求する内容で、ベルリン、アムステルダム、コペンハーゲンからオンラインでゲスト講師を迎えて、合計611名の参加者を迎えることができた(3-2-9参照)。

11月からは、オーストリア出身のトリスタン・ダハさんのボランティア受け入れをスタートした。海外のナチズム・ホロコーストの博物館で奉仕活動をする中で兵役の代わりになるという「オーストリア海外奉仕プログラム」の派遣生として10カ月間Kokoroで活動に参加してもらう。これは、ナチズムの犯罪への加担というオーストリアの歴史認識に基づくものであり、トリスタンと日本の若者の交流を通して、自国の加害の歴史をめぐる対話の場を事業の中で組み込むことができた(3-2-2参照)。

【2】事業の実施に関する事項

1 教材の制作及び提供事業 (展示パネルの貸出)

ホームページで公開中の下記のオンラインミュージアムに、新たに(5)のビデオ教材を制作した。

- (1)「アンネとまちよと希望のバラ」
- (2)「ヤーノシュの物語」
- (3)「若者対話：歴史を知ってどうということ？」
- (4)「世界に向かって叫べなかったことをわたしたちはここに埋める」
- (5)「ぼくたちは新しい文化をつくるーテレジン収容所の秘密の雑誌VEDEMより」

2 書籍・資料などの収集及び提供事業

関連図書と映像については、インターネット図書館「ブックログ」(<http://booklog.jp/users/therc>)を利用して情報提供を行った。登録数は1,480冊。

3 講演会、セミナー等の開催事業

3-1. 訪問授業・講演会

全国の小・中学校、大学、自治体より依頼を受けて合計53回実施した。

1	2023/5/13	高麗博物館	博物館	対	問いづくり
2	2023/5/19	Escola Adventista de Ararquara	小学校	オ	ハンナのかぼん
3	2023/5/23	湘南学園	中学校	対	問いづくり
4	2023/5/30	明治学院大学社会学部	大学	対	ソーシャルワークと平和
5	2023/6/8	名古屋外国語大学	大学	対	ハンナのかぼん
6	2023/6/17	清瀬第三小学校6年生	小学校	対	杉原千畝
7	2023/6/17	清瀬第三小学校5年生	小学校	対	ハンナのかぼん
8	2023/6/22	田端小学校6年生	小学校	対	杉原千畝
9	2023/6/22	田端小学校5年生	小学校	対	ハンナのかぼん
10	2023/7/6	東京純心女子高校	高校	対	ハンナのかぼん
11	2023/7/15	鎌倉学園	高校	対	問いづくり
12	2023/7/25	コリア国際学園	中学校	オ	問いづくり (教員対象)
13	2023/8/19	Dialogue for People	地域?	対	問いづくり
14	2023/9/26	鳥取市人権センター	自治体	オ	アウシュヴィッツからの問い
15	2023/10/3	田園調布雙葉小学校	小学校	対	アンネ・フランク
16	2023/10/4	中京大学	大学	対	問いづくり
17	2023/10/11	横浜サンモールインターナショナルスクール	小学校	対	ハンナのかぼん
18	2023/10/31	桐朋女子高校	高校	対	ハンナのかぼん
19	2023/11/9	名古屋外国語大学	大学	対	ハンナのかぼん
20	2023/11/14	品川女子学院高校	高校	対	アウシュヴィッツからの問い
21	2023/11/18	立教新座高校	高校	対	問いづくり
22	2023/11/21	品川女子学院高校	高校	対	哲学対話
23	2023/11/22	川北中学校	中学校	対	ハンナのかぼん
24	2023/11/28	熊本学園大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い
25	2023/11/29	九州ルーテル学院大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い
26	2023/11/29	熊本県ユニセフ協会	地域	対	アウシュヴィッツからの問い
27	2023/12/4	東邦大学	大学	対	ハンナのかぼん
28	2023/12/9	岩手県PTA大会	地域	対	Vedem
29	2023/12/13	セントヨゼフ女子学園中2	中学校	対	ハンナのかぼん
30	2023/12/13	セントヨゼフ女子学園教員	中学校	対	哲学対話
31	2023/12/14	セントヨゼフ女子学園中3	中学校	対	アウシュヴィッツからの問い
32	2023/12/18	鹿沼北小学校	小学校	対	ハンナのかぼん
33	2023/12/19	洋光台第二中学校	中学校	対	ハンナのかぼん
34	2024/1/10	東京女学館中学校	中学校	対	ハンナのかぼん
35	2024/1/11	愛知教育大学	大学	オ	アウシュヴィッツからの問い
36	2024/1/17	香蘭女学校	高校	対	ハンナのかぼん
37	2024/1/18	愛知教育大学	大学	対	想起の文化をめぐる対話
38	2024/1/20	晃華学園	中学校	対	ハンナのかぼん
39	2024/1/24	明治学院高校	高校	対	ハンナのかぼん
40	2024/2/5	光塩女子学院	小学校	対	ハンナのかぼん
41	2024/2/6	聖心女子学院中等科	中学校	対	ハンナのかぼん

42	2024/2/17	熊本県ユニセフ協会	地域	対	ぼくたちは新しい文化をつくる
43	2024/2/18	ルーテル室園教会女性会	地域	対	哲学対話
44	2024/2/20	座間市立相模野小学校	小学校	対	ハンナのかぼん
45	2024/2/21	北の台中学校	中学校	対	ハンナのかぼん
46	2024/3/9	世田谷区立弦巻中学校	中学校	対	ハンナのかぼん
47	2024/3/11	練馬開進第三中学校	中学校	対	ハンナのかぼん
48	2024/3/13	鷗友学園	中学校	対	ハンナのかぼん
49	2024/3/15	世田谷区立梅丘中学校	中学校	対	ハンナのかぼん
50	2024/3/16	東京都人権プラザ	自治体	対	コルチャック先生
51	2024/3/19	東京外国語大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い
52	2024/3/21	霧が丘学園 中学部	中学校	対	ハンナのかぼん

3-2. NPOの自主事業として開催

3-2-1 音楽と講演 ワルシャワ・ゲットー蜂起80年記念

開催日時	2023/4/19(水) 19:00～20:30
内容	毎年ワルシャワ・ゲットー蜂起の日は「ヨム・ハショア」と呼ばれるホロコーストの記念日にあたる。蜂起80年の節目に、ゲットー跡地に建つ「ポーランドのユダヤ人歴史博物館」(Polin)の教育部主任マリウシュ・ヤスシヨンプさんをゲストに迎えて、蜂起の歴史と記憶、そして未来の世代のための同博物館の教育事業について講演していただいた。プログラムの冒頭では、東京在住のピアニスト、そしてホロコースト生還者であるヤーノシュ・ツェグレディさんに演奏をしていただいた。
会場	ハイブリッド
対象／参加人数	学生～一般／合計200名
参加者アンケートより	▶POLINを訪れたとき、あまりの展示資料の資料の多さに圧倒されたが、それが整理されるよい機会でした。ありがとうございました。ユダヤ人の歴史、そのほか世界の迫害の歴史を学び続けます。 ▶オンラインでドイツから参加しました。ヤノシュさんのピアノ演奏は是非生で聞きたかったと思うほど心に訴えかけられる何かを感じました。2週間前、ニュルンベルク裁判所・旧ナチ党集会所、ダッハウ収容所を訪れました。自分の予想を大きく超える強く大きな力が民衆を支配していたこと、ドイツを戦後ナチ思想から離脱させる過程で直面した困難を感じました。2ヶ月後はワルシャワとアウシュビッツを訪れる予定なので、館長さんのプレゼンテーションはとてもためになり、事前にポーランドの歴史も調べようと思いました。今回の経験で、ヨーロッパが平和のために色々な方法で記憶を残そうとしていることを感じました。日本も何かしていることはないのかと自国に思いを馳せるきっかけにもなりました。

3-2-2 ゲストトーク「ナチズムの記憶から平和奉仕へ～オーストリアの事例を学ぶ」

開催日時	2023/4/20(木)17:00～19:00
内容	オーストリアには、兵役の代わりに海外でのボランティア活動を選ぶことができる「オーストリア海外奉仕」(Austrian ServiceAbroad)というプログラムがある。政府の支援のもと、これまで700人を超える20代の若者が60ヶ国、134ヶ所に派遣されている。主な派遣先は、ホロコースト関連の博物館で、これはナチズムの犯罪に対するオーストリアの責任認識に基づくもので「記憶の奉仕」と呼ばれる。11月にKokoroにおいてもオーストリアの若者を受け入れることになり、先立って「記憶の奉仕」について学ぶためにゲストトークを開催した。ゲストは、自身も「記憶の奉

	仕」派遣生であったオーストリア文化フォーラム東京のマリオ・フィールグラダー所長及び現在メルボルンのホロコースト博物館でボランティアをしている若者の二人のプレゼンテーションを聞いて、ディスカッションを行った。
会場	オーストリア文化フォーラム東京
対象／参加人数	学生～一般／合計35名

3-2-3 講演会「ドイツの『想起の文化』と出会う～日本の学生たちのスタディツアー実践より」(対面とオンライン)

開催日時	2023/5/13(火)14:00～16:00
内容	昨年ドイツで開かれた国際歴史フェスティバルやこれまでの欧州スタディツアーで日本の若者たちと出会ってきた様々なナチ時代の記念碑や博物館を紹介した。
会場	高麗博物館(東京都新宿区)およびオンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計100名

3-2-4 ワークショップ「『わたし』の問いを見つける～性とジェンダーをめぐる対話」

開催日時	2023/5/23(火)16:00～18:00
内容	ホロコーストの中で犠牲となった同性愛者についてはこれまであまり語られることがなかったが、今年の国際デーではドイツ連邦議会で性的マイノリティの人々への追悼が行われました。この歴史と記憶を入口にして、身近な社会を振り返りつつ、対話をするために本イベントを実施した。
会場	湘南学園中学校高等学校
対象／参加人数	高校生～一般／合計15名

3-2-5 ワークショップ「映像を読み解く～ある旅行者が1938年に撮影したホームビデオより」第21期NPO総会特別企画

開催日時	2023/6/17(土)19:00～21:15
内容	1938年にとある旅行者が撮影したホームビデオの3分間の映像という「歴史の一次資料」を問いの焦点にしたワークショップを開催した。カメラに映る笑顔の子どもたちや村人たちは、翌年ナチ・ドイツが侵攻したポーランドの町だった。約3,000人のユダヤ住民の多くが殺された。第21期NPO総会の特別企画として開催。
会場	オンライン
対象／参加人数	Kokoro会員、学生、一般／合計48名
参加者アンケートより	▶1つの写真（素材）を複数の人で見ることで、各人の意見や印象の共通点や違いが分かり、とても有意義でした。単純な疑問＝問いから出発して、考えを広め深めていくプロセスを体験できてよかったです。 ▶問いを立てながら見たことで、「この笑顔の子供たちは、歩いているおじいちゃん、エプロンをしているおかあさんは、このあとどうなったんだろう」などと想像し、映像のその先にある広がりを見つめることができました。(中略)当時の人々を自分に置き換えて考えた時に自分はどのような選択をするのか、自分は絶対に差別をしないのか、などをこういった活動を通じて一人一人が想像力を鍛えて自分に問いかけ、一般化することが本当に大事なことと思います。そういった意味で、Kokoroの活動は非常に賛同する意義が大きいです。

3-2-6 ギャラリートーク&ワークショップ「関東大震災絵巻を読み解く」@高麗博物館

開催日時	2023/8/12(土)14:00～16:00
内容	関東大震災から100年の節目の今年、夏休みの企画として、高麗博物館との共催により、初公開の「関東大震災絵巻」を用いた問いづくりワークショップ&ギャラリートークを開催した。
会場	高麗博物館
対象／参加人数	Kokoro会員、学生、一般／合計56人
参加者アンケートより	▶問づくり体験はいつも他者にある「自分にはない何か」を気づかせてくれます。 ▶だれと・どんな時・どんな環境で行うか、によって全く新しい問いに出会えることに改めて気づかされました。哲学対話の時間もグループの方の体験に基づいたお話や価値観を伺うことができてとても充実した時間ができました。

3-2-7 初来日記念！カロール・ウィルチンスキさん講演会「平和のつくりかた」

開催日時	2023/8/23(水)14:30～16:30
内容	ポーランドのクラクフで、移民・難民支援を行っているカロール・ウィルチンスキさんが初来日し、講演会を開催した。カロールさんはKokoroのスタディツアーでポーランドを訪ねる際にワークショップを依頼しているご縁があり実現した。
会場	鎌倉学園中学校高等学校
対象／参加人数	学生～一般／合計29名

3-2-8 大学生協ヨーロッパピーススタディツアー

開催日時	夏2023/9/1～9/8 春2024/2/27～3/8
内容	ワルシャワ、クラクフ、アウシュヴィッツなどの史跡や博物館を訪ねて、歴史を尻、記憶のかたちに出会い、現代社会をふりかえって考える。
対象／参加人数	大学生／夏12名、春9名
参加者アンケートより	▶歴史についてこんなに深く考えたのは初めてだった。過去の歴史について過去のものと考えて、当時の事について詳しくなるだけではなく、その歴史を活かしてこれからどうやって生きていくのかを考える事の重要性を何よりも感じられた。 ▶一人ひとりの視点に立って歴史を捉えることの大切さを学びました。人間一人ひとりの固有性が奪われ、人間以下のものとして扱われた収容所の惨たらしさを改めて感じました。同時に、私自身が人と向き合うときに一人ひとりの背景や個性を大切にしてお話していきたいと思いました。 ▶自分一人ではこんなにたくさんの戦争遺構や博物館に足を運ぶことは出来なかったと思う。今と昔を比べながら、自分の生きている現代はどんな歴史の上に成り立っているのかをじっくり学べる時間だった。 ▶このツアーで何よりも嬉しかったのは、コミュニティが広がったことです。学年、出身、参加した目的も異なる方と旅を共にし、旅行中は彼らから常に刺激をもらっていました。

3-2-9 ワークショップ「ナチズムの歴史をたどり考える - 『抵抗』とは何か

開催日時	2023/9/29(金)20:00～22:00オンライン、9/30(土)対面
内容	「抵抗」というキーワードから歴史と記憶を探究するシリーズのプレ企画として開催。 ———想起の文化を育む—「抵抗」をめぐる対話を通して——— 私たちは「抵抗」という言葉から何を思い浮かべるだろう。自由を奪われたとき、不正義を目の当たりにしたとき、信念に忠実でいられなくなったとき。。。どんなときに、何に対して、どのように、「わたし」は抵抗するだろう。ナチズム下で「他者」への排除と迫害が進行するなかで、無数の市民が傍観していたとき、わずかに握りの人々が抵抗するために立ち上がりました。それは、年齢も職業も社会的立場も異なる人々でした。抵抗の形や規模は幅広く、動機や結末もまた様々でした。しかし、「抵抗」とは何か。ゲオルグ・エルザーのヒトラー暗殺は失敗し、犠牲者を生んだ。白バラの学生たちのナチ政権打倒を呼び掛けるビラは多くの人々の心を動かさなかった。金銭的な見返りを得て、ユダヤ人をかくまった者がいた。そしてこれらの「抵抗」の歴史はどのように語られてきたか、語られてこなかったか。ナチ時代の様々な抵抗をめぐる市民の葛藤に迫り、私たちの倫理観に揺さぶりをかけ、社会を考える。
対象／参加人数	9/29(金)オンライン／50名、9/30(土)対面／20名
参加者アンケートより	▶最初に被害者個人にフォーカスするというのが素晴らしいと思いました。歴史的な話はどうしても社会的に大きな出来事や統計、数字などから入りがちで、自分ごととして落とし込むのに時間がかかることがあります。身近にいそうな人物「個人」のヒストリーにすることで、自分、家族、友人だったら...と考えることができ、主体的に歴史を考えたり見たりすることができました。また、講義よりもワークの時間が多かったのも良かったです。自分では考えない視点や意見を聞くことによって、自分の視野や興味がグッと広がりました。 ▶単なる過去の歴史についての考察ではなく、今現在生きている自分事として、ホロコーストや迫害、人権尊重や抵抗などについて議論する大切さを認識できた。

3-2-10 講演会「ナチズム下の『抵抗』—その多様なかたち—ドイツ抵抗記念館より」

開催日時	2023/10/7(土)20:00 - 22:00
内容	「想起の文化を育む—『抵抗』をめぐる対話を通して」の第二弾として、ベルリンのドイツ抵抗記念館から歴史家をゲストに迎えて講演会を開催した。
会場	オンライン zoomミーティング
対象／参加人数	学生～一般／94名
参加者アンケートより	▶抵抗することについて考えられる素晴らしい講義と対話だった。抵抗することとは、あまり考えたことはなかった。なぜなら自分の心が侵害されたことはそんなになかったからだ。しかし、その状況に置かれた人々がどう抵抗するのかを学ぶことは、自分の価値観を育ててもしもの時に抵抗することに繋がるのではないだろうか。(10代) ▶抵抗することは易しいことではない。抵抗の行動を起こすには、まず自分自身の殻や心の壁に抵抗する必要があると思うから。抵抗のいろんな形を学び、人が自分にできる抵抗のかたちを見出すことが重要だと思った。(60代)

3-2-11 展示見学&対話「想起するということ」@ゲーテ・インスティトゥート東京

開催日時	2022/10/29(土)20:00 - 21:30
内容	ゲーテ・インスティトゥート東京で開催中の展示「想起するということ」を見学後に対話をした。オーストリアから来日のトリスタン・ダハさんと大学生の交流の場としても開催することができた。
会場	ゲーテ・インスティトゥート東京
対象/参加人数	大学生、U30/10名

3-2-12 オンライン講演会「オランダの『抵抗』ー白と黒 その間にあるもの」ゲスト講師：オランダ抵抗博物館リズベス・フォン・デア・ホルスト館長

開催日時	2023/12/1(金)20:00 - 22:00
内容	10月からシリーズで開催している「想起の文化を育むー『抵抗』をめぐる対話を通して」の第二弾として、アムステルダムのオランダ抵抗博物館からリズベス・フォン・デア・ホルスト館長をゲストに迎えて講演会を開催した。ナチ・ドイツ占領下のオランダでは、約75%のユダヤ系市民がホロコーストの犠牲となる。アンネ・フランクのように市民の「抵抗」によってかくまわれた人々がいた一方で、市民の「共謀」によってナチ側に差し出されたユダヤ人もいた。この歴史は今、オランダではどのように記憶されているのか。様々な抵抗をめぐる市民の葛藤をテーマに
会場	オンライン zoomミーティング
対象/参加人数	160名
参加者アンケートより	▶とても学びのある2時間で、あっという間に感じました。「オランダ抵抗博物館」に是非足を運びたいと感じると共に、日本でも様々な市民の活動や社会運動があって今の社会が存在するのだと思うと、そうした市民や個人のストーリーに光をあて、見る人に自分と照らし合わせて道徳的葛藤を与え、考えさせるようなミュージアムがあるべきと強く思いました。(30代) ▶歴史博物館は一般的に、各時代に何が起きたかという「客観的な」事実だけを展示する傾向がある気がする。なので、この博物館が、ナチによる占領の時代に生きていた一人一人の個人の内面にフォーカスした展示を行っているのが興味深い。そして、白黒ははっきりつけないのもまたいいと思った。外側の行動だけを切り取って「悪」と「英雄」の対比を作ると、その間のスペクトラムは見落とされてしまうからだ。そして、ホルスト館長が、旧植民地の人々など語られてこなかったマイノリティの歴史にもちゃんと光を当て、また、来館者として多様な人々を想定する姿勢をお持ちだったことに感銘を受けた。しかし、それでも、歴史の語りから障害者の目線が抜け落ちてしまうのは、どんな社会の構造によるものなのだろうか。ナチによる支配の中で、障害者には障害者なりの、抑圧と抵抗の経験があったはずだが、それが語られないのは、当時の社会の状況と現在の社会のあり方のどのような相関によるのだろうか。(20代)

3-2-13 オンライン講演会「デンマークの『抵抗』の歴史ー語られてきたこと 語られてこなかったこと」ゲスト講師：コペンハーゲン大学ソフィ・リーネ・バク准教授

開催日時	2023/12/16(土)20:00 - 22:00
内容	10月からシリーズで開催している「想起の文化を育むー『抵抗』をめぐる対話を通

	して」の第三弾は、第二次世界大戦時のデンマークの歴史を取り上げた。ナチ・ドイツの占領下に置かれたデンマークでは、95%のユダヤ系市民がホロコーストを生き延びる。占領軍に対して抵抗運動を行っていた市民の支援によって、ユダヤ人たちは中立国スウェーデンへ逃れた。この歴史は、人間の「共感力」「公共心」そして「並外れた勇気」の物語として、数多くの絵本や映画、ドキュメンタリーなどでこれまで描かれてきたが、そのなかで語られてこなかったものは何か。コペンハーゲン大学ソフィ・バク教授にご講演いただいた。
会場	オンライン zoomミーティング
対象/参加人数	学生～一般/175名
参加者アンケートより	▶今回の講演を聞いて、自国の歴史を批判的にみる視点が印象に残った。(中略)日本でも、第二次世界大戦により受けた原爆の被害や空襲については人々の記憶に強く残っているが、日本軍が旧植民地の朝鮮や台湾・東南アジアで行った非人道的な行いはほとんど注目されない。自国の歴史を第三者目線で見て、悪い点にも目を逸らさずに向き合うことが、二度の世界大戦で起きた悲劇の再発を防ぐことにつながると思う。(10代) ▶『歴史』をどう捉えてどう活かしていくか、学問としてだけでなく一般にどう開示するか、受け止める側に何が必要か、それらと時の変化への対応の必要の有無はあるのか。これらを実現し続けている事への尊敬の念を抱きました。(60代) ▶「デンマークのユダヤ人救出を、ポーランドなど東ヨーロッパのそれと同列に語ってはいけない。」という言葉が印象的でした。歴史から何かを学ぶというとき、ある側面を抜きとってそれを大きな語りのなかに取り込むということが行われますが、そのときに歴史的文脈を批判的に見るという土台がとても重要です。それが歴史学の役割でもあり、歴史学が、歴史継承や歴史教育、人権教育、平和教育にきちんと関わり生かされることが大事だと、今回の講演を聴いて改めて思いました。そしてそれは日本に欠けている部分だとも強く思いました。

3-2-14 問いづくりワークショップ@ゲート・インスティテュート東京 [対面開催]

開催日時	2023/12/20(水)16:00 - 18:15
内容	第二次世界大戦の「証言」を用いた問いづくりワークショップを開催した。
会場	ゲート・インスティテュート東京
対象/参加人数	学生～一般/16名
	▶みんなが思い思いに意見を述べていて、お互いの存在を一人の人間として認め合う空間ができていたと感じた。私自身も、評価されるかな、変に思われなかな、という不安を感じることなく安心して自分の意見を他の参加者と共有することができた。自分の考えを自由に表現できるこのような場がもっと増えてほしいと感じた。金子安次さんの証言はかなり生々しくて読みながらドキドキした。しかし、今の日本では話づらいこのようなテーマも、問いづくりのプロセスを丁寧に追って自由に意見を表明できる安心感をその場につくることで、一人一人が向き合えたり対話の材料になり得たりするのだと感じた。(20代) ▶戦争の証言を朗読したのは初めてでしたが、話を聴いたり読んだりする時とは違い、まさしく「証言に出会う」という体験でした。普段なかなか戦争や平和について人と対話する機会はありませんでしたが、人が集って話すことの大切さを改めて実感しました。(50代)

3-2-15 国連制定ホロコースト国際デー2024 in Tokyo 高校生ワークショップ「子どもたちの『抵抗』ーテレジンの秘密の雑誌をめぐる対話」 [対面開催]

開催日時	2024/1/27(土)
内容	国連が定めた「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」である1月27日に、高校生を対象にしたワークショップを開催した。問いづくりの教材としてテレジン収容所で少年たちが秘密裡に発行していた雑誌「VEDEM」を教材に取り上げ、現代の世界の平和について対話が広がった。
会場	ゲーテ・インスティトゥート東京ライブラリー
対象／参加人数	高校生/35名、大学生10名
参加者アンケートより	▶他者と対話することで、自分の考えも改めて考え直すことができました。自分がどう思っているのかに向き合うことができました。自分では思いつかないことを他者は考えていて、でも、その意見にもすごく共感できて、他者との意見交換ってすごく学びになるなと思いました。 ▶様々な角度から問いが作られるのをみて、たった一文からこんなにたくさん発想を広げられるのだと気づきを得た。また、当時の少年たちが残した言葉を朗読してみて、すごく心が動いた。鋭い洞察や、優しさや、生身の人間として収容所の中で感じている痛みなど。 ▶事前の知識量を一切問われる事なく、会場やグループの空気に温かみがあり、意見を積極的に発言しやすかったです。この場で身につけたり考えたりしたことを、今度は自分が広めることで平和な世界に近づけようと思いました。

3-2-16 ワorkshop「子どもたちの『抵抗』ーテレジンの秘密の雑誌をめぐる対話」 [オンライン開催]

開催日時	2024/2/3(土)13:00 - 15:00
内容	3-2-15のワークショップをオンラインで一般参加者対象で実施した。
会場	オンライン
対象/参加人数	28名
参加者アンケートより	▶誰かと一緒に言葉に「出会う」ことで、想像力も膨らみ、学びや気づきが多いということを改めて感じました。生死と向かい合わせの緊迫した暮らしの中でも、人らしく生きることを諦めない、希望を持って生きようとする意思が雑誌の言葉から伝わってきました。彼らの意思と言葉は、戦争が他人事ではない今を生きる私たちに向けられている、と感じました。(20代) ▶テレジンの少年たちが作った雑誌「Vedem」の言葉から、悪への抗議、生きることへの強い意志が伝わってきました。リレー形式で朗読すると、さらに熱を帯びて、時空を超えて自分に向けられたメッセージのように感じられました。歴史に学ぶことが無力に思えるほど痛ましい昨今の状況だからこそ、断ち切れない憎悪の連鎖や報復行為にどのように「抵抗」していくかが切実に問われていると思いました。問いを作る、選ぶ、共有するプロセスも、対話を導くステップとして、良かったです。(50代)

4 人権・平和教育に関する普及啓発事業

4-1. 「Kokoro通信」(ニュースレター)

Kokoro通信(A4、8ページ)は2023年度は休刊した。

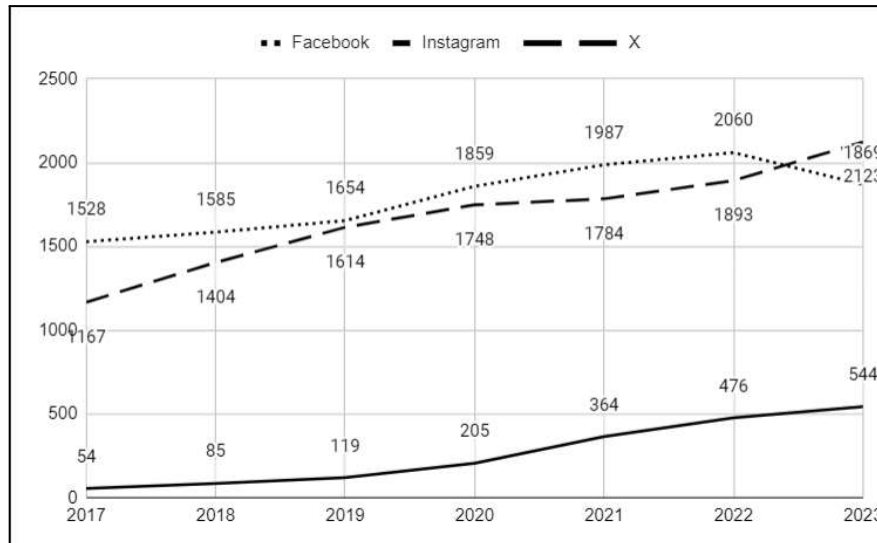
4-2. 「Kokoroメルマガ」の発行

Kokoroメルマガは、6回発行し、イベント情報などを合計4,800名にメールで提供した。

4-3. その他のSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を利用した情報発信

ブログやフェイスブックなどのSNSによる定期的な情報発信を継続して行った。2020年度より始めたYouTubeの「Kokoroのチャンネル」での映像記録の公開および広報動画の投稿を継続して実施した。Instagramのアカウント@kokoroyouthは、インターン生が中心となって投稿を担当した。

▶主なSNSのフォロワー数経緯



4-4. メディア寄稿、取材

下記の新聞などで活動が計8回取り上げられた。

1. 2023年4月27日	媒体 Japan Times
Japan-based Holocaust survivor honors historic Jewish revolt with piano performance	
2. 2023年4月27日	媒体 しんぶん赤旗
人権尊重 考えあう場に ホロコースト教材に出前授業	
3. 2023年5月1日	媒体 女性のひろば
学生たちが考えた「わたし」と「れきし」展 モヤモヤを語り合う場に	
4. 2023年8月15日	媒体 共同通信
この人 石岡史子 ホロコーストを教材に訪問授業を行う	
5. 2023年9月23日	媒体 日経新聞
平和学習オンラインで (日独高校生スタツア)	
6. 2023年1月21日	媒体 毎日小学生新聞
ホロコーストを生き抜いて / 体験者の伝えた言葉	
7. 2023年1月25日	媒体 Radio Dialogue (Dialogue for People)
ホロコーストとヘイトスピーチ	
8. 2023年1月30日	媒体 中国新聞
ジュニアライター発 ホロコースト伝える絵本 偏見や差別と向き合って	

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時		従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
① 教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネル(オンライン含む)やビデオの制作・提供	随時	事務所	2名	不特定多数	58,970
② 書籍・資料などの収集及び提供事業	SNSなどでのおすすめ図書の紹介	随時	事務所	1名	教育関係者、一般100名	59,119
	ブックログ(登録1428冊)					
③ 講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会	53回	小中高校、大学	7名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般6,332人以上	6,456,490
	NPO自主企画	16回	オンライン		916人	
④ 人権・平和教育に関する普及啓発事業	メールマガジン	6回	事務所	2名	4,800名	365,907
	ホームページ、ブログ	随時		2名	不特定多数	
	メディア寄稿・出演	8回		2名	不特定多数	
	SNSツールの活用 ・ Facebook ・ Twitter ・ Instagram ・ YouTube	週3回		10名	不特定多数	